

進んで学び、自分の考えを表現する子どもの育成

～分かった・できたと実感できる指導法の工夫～

上越市立南本町小学校

1 学校の概要

南本町小学校は、今年創立 126 周年を迎える。高田の中心地にありながら、春には高田城下の桜を眺め、夏には青田川のせせらぎを感じ、秋には市内で最も樹齢を経た大いちょうが色づき、冬にはスキー発祥の地で有名な金谷山でのスキー授業を楽しむことができる、自然に囲まれた学校である。

地域とのつながりが大変深いことも特徴である。上越祭りでスクールバンドのパレード披露や「雁木通りまつり」という地域の祭りに学校ぐるみで参加する。そのまつりでは、子どもたちは歌や踊りを披露したり、店子として参加したり、職員は仮装行列に参加し祭りを盛り上げている。また、地域のお寺を会場に「子ども食堂」が催され、子どもたちに無料で食事が提供され、地域のボランティアの方との交流を深める場もある。地域と一体となって、子どもを育てている。

学校の教育目標は「一人一人の笑顔づくり」。学年の成長段階に合った形で、自尊感情の育成に取り組んでいる。保護者を中心とした本の読み聞かせボランティアの活動や、児童による縦割り班活動も盛んで、日々の異学年交流は友達と心を通じ合わせる機会となっている。このような環境で 256 名の児童が笑顔で学んでいる学校である。

2 NIE 実践のねらい

(1) 研究主題

進んで学び、自分の考えを表現する子どもの育成
～児童が「分かった・できた」と実感できる指導法の工夫～

平成 28・29 年度は、「進んで学び、自分の考えを表現する子どもの育成」を研究主題として授業研究に取り組んできた。今年度は、研究主題へのアプローチとして、「分かった・できたを実感できる授業」づくりを目指して取り組んできた。さらに、新聞を活用した教育活動（NIE）を取り入れ、授業改善を行い、「進んで学び、自分の考えを表現する子どもの育成」を図った。

(2) NIE 実践の重点項目

- 児童が新聞に親しむ環境をつくる。
- 新聞を活用した授業を行う。

NIE 研究指定校 1 年目であった今年度は、児童が新聞に親しむこと、教員が研究主題達成のために新聞を利用して授業をすることを主眼とした。さらにその上で、NIE を通して、今年度の研究主題の副題となる児童が「分かった・できた」と実感できる指導法の工夫をすることが研究の中心であった。

3 本年度の実践の概要・実践内容等

(1) 校内研修

①新聞社吉岡さんによる新聞講座

第1回職員研修（6月26日）

NIE 研究実践校となり，最初の職員研修は，「新聞の読み方講座」と題して，新潟日報報道部企画担当部長の吉岡和彦様からご講話いただいた。

吉岡様から「新聞をカジュアルに読む」ことへの提案があった。「新聞の外側のページだけを読む」「囲み記事や右上を読む」「見出しだけ読む」「記事の終わりは読まない」であった。子どもたちに対しても，「身近なハテナを調べるとき」など，新聞から探したいことが見つかったら，このカジュアルな読み方を知らせ，新聞はさほど難しくないと感じてもらうことに役立つ内容であった。

参加した職員からは，「何のために新聞を読むのか，その目的をはっきりさせたい。」「最終的には学校目標の自尊感情の育成を担う一端となればよいと考えている。」などの感想が寄せられた。NIE 教育を特別なものとするのではなく，従前の教育課程の一層の充実に向かうために活用したいという意欲を感じることができた。

②新聞スクラップポスター作り

第2回職員研修（8月23日）

「新聞の読み方講座」に続く2回目の研修は，購読している新聞を利用して，新聞スクラップづくりを体験した。新聞1日分の記事の文字総数は約20万字。じっくり全文読む時間がないという現実を逆手に，目に飛び込んできた記事，気になる記事を読んで，切り取って，貼るというスクラップポスターを作った。作り方のコツは，読売新聞に掲載されていた親子で新聞スクラップを作成する記事を参考に行った。



作成方法は以下のように，ステージ1からステージ3までの3段階で提示した。

【ステージ1】

- A テーマを決める。
- B 好きな記事や写真をどんどん切り抜く。
- C 10枚ほど見つかったら，テーマにあうものを選んで貼る。

【ステージ2】

- D スクラップ全体を一言で言い表す見出しをつける。
- E 「ぱっと目に入る」短い小見出しをつける。

【ステージ3】

- F 記事に対するひとことを添えるとさらにGOOD！！
- G 最後に，子どもに伝えたい「〇〇先生より ひとこと」を書き加える。

参加した感想として，「新聞って，面白いことが書いてあることに気付いた。」「スクラップしたい記事ばかりで記事を厳選するのが大変だった。」「せっかく作ったから，子どもた

ちに見せてあげたい。」などの意見が挙がった。後日、作成したスクラップポスターは、児童玄関前に掲示し、2学期に初登校する子どもたちを迎えた。

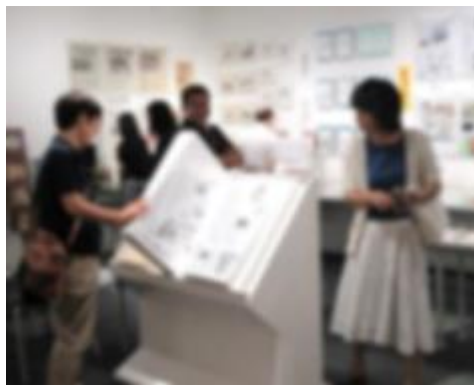
子どもたちは、担任の先生のポスターをじっと眺めたり、先生が選び抜いた記事の写真をにこやかに眺めていた。

③おもしろしんぶん館見学

第3回校内研修（8月25日）

新潟市にある、「新潟日報のおもしろしんぶん館」を見学する職員研修旅行を行った。おもしろしんぶん館の中は、新聞が作られるまでの様子を子どもにも分かりやすく紹介したコーナーや、中越地震・中越沖地震のときの新聞記者の活動や、昔の新聞など、懐かしいものも掲示されていた。また、実際に新聞を印刷している作業工程も見学した。高さ13メートルの最新鋭の大型輪転機は迫力満点だった。

シアタールームでは、新潟日報のキャラクター、ニックが分かりやすく解説してくれたので、子どもたち向けに、新聞というメディアの役割を知ることが目的として「おもしろしんぶん館」の見学を計画し、次年度につなげたいと思った。



④新聞の読み方講座

第4回 校内研修

おもしろしんぶん館では、新聞講座を開設していただき、花沢康雄様から「新聞読解とコミュニケーションについて」の講座を開設していただいた。「セレンディピティ」という言葉を初めて聞き、新聞との出会いの面白さや活字でコミュニケーション能力を高める指導について話を聞いた。デジタル機器では得ることのできない活字ならではのよさを再確認することができた。

⑤NIE アドバイザーの川合さんによる実践講座

第5回 校内研修（8月29日）

NIE アドバイザーの川合紀子様よりお越しいただき、新聞活用教育についてご講話いただいた。なぜ、新聞活用なのか？新聞活用の効果を具体的事例で示していただいたり、実際に、新潟日報ふむふむを見ながら教材化できる記事探しを体験したりする中で、NIEについての実践的知見を広げることができた。



⑥NIE 授業研究会

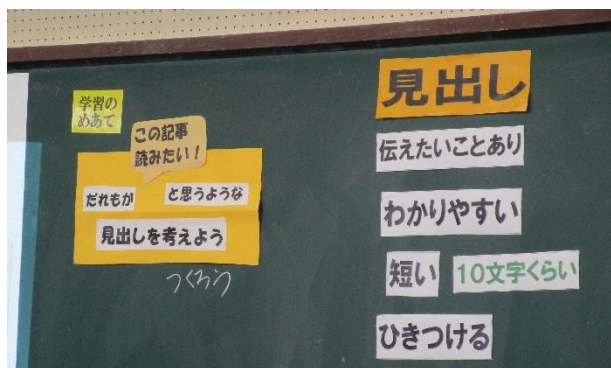
第6回 校内研修（9月27日）

4年生の国語の授業を参観し、研究主題に沿った効果的な授業での手立てを工夫した。授業は、雁木通りまつりに参加したことを新聞にまとめることを目指し、新聞の見出しの工夫を考える内容であった。

○新聞の工夫などを視覚化する ICT やフラッシュカードの活用

○考えをもち、伝える場や評価カードの工夫

これらの手立てによって、児童は相手を引き付ける見出しを考えたり、友達のアドバイスをもとに、見出しをより工夫したりすることができた。



⑦出前講座（12月18日）

5年生向けに、社会科の出前授業を実施した。新潟日報本社から、新潟日報社 読者局ふれあい事業部の川崎様にお越しいただいた。「情報を伝える新聞」と題し、新聞というメディアについてや、新聞記者の仕事について、また、新聞の読み方や魅力など多岐にわたり話をいただいた。

「家で新聞、見たことない。」「新聞、とってない。」など日常生活に新聞を見る機会に乏しい児童も多かったが、新聞というメディアの面白さに触れ、一人1部ずついただいた新聞を手し、お気に入りの記事を見つける活動に夢中だった。



⑧NIE 研究会参加報告会（12月25日）

糸魚川中学校と津南小学校の NIE2 年次研究会に参加した報告会を実施した。2年間の取組や、校内の教師集団の結束力を2つの学校の実践から改めて感じると共に、NIEを通して、子どもが変容する姿を垣間見ることができた。

⑨NIE 授業研究会（1月19日）

5年生の国語科の授業を参観し、協議会を行った。豪雪により列車が15時間にわたり立ち往生したことについての記事を全国紙と地方紙で比較した。新聞記事を届ける相手によって記者の書きぶりが異なってくることを新聞を比較して見比べることで感じる内容であった。

国語の教科書の題材である『メディアリテラシー入門』の著者池上彰さんの主張について新聞を比較することにより確かめることができる活動であった。

⑩授業実践のまとめ（1月19日）

前半は、1年間の校内研修を振り返り、新聞を活用した教育のよさや課題を振り返った。後半は、視覚的カリキュラム表を活用し、次年度の活動を構想した。来年度の校内研究とNIEの結びつきを確認し、視覚的カリキュラム表に新聞を活用できる場面を追記した。

（2）NIE 環境づくり

①NIE コーナー設置

児童玄関前に、「南のNIE」の看板を設置し、NIEの掲示板スペースを作った。NIEコーナーの設置については、全校集会の時に説明をした。児童玄関に設置したことで、登校時、下校時に子どもたちが立ち止まって見るようになった。

掲示内容は、NIEの担当者お薦めの記事を掲載したり、子どもたちの活動に合わせて興味をひくような記事を掲載したりした。写真は、6年生の修学旅行前のNIEコーナーである。修学旅行先の東京に合わせて、新聞を掲示した。



【児童玄関前のNIEコーナー】



また、子どもたちが掲示板の前で憩うことができるような場にしたいと思い、新聞ラックとソファを設置した。

休み時間にソファに座って新聞を読む子どもの姿が少しずつ増えた。

2学期からは、先生方が週替わりで〇〇先生コーナーを担当し、職員全員で子どもたちにタイムリーな新聞記事を紹介していくことを継続的に行った。

②昼（給食時）の放送での新聞記事紹介

毎日の給食時の放送に「掲示委員会からの新聞記事コーナー」を設けた。担当の児童が日替わりでおすすめの新聞記事を放送で読み聞かせている。





掲示委員会の児童は、登校すると昼に全校に紹介する新聞記事を選び始める。低学年から高学年までが聞いて楽しめるような記事、自分たちが面白いと感じた記事、世の中の動きとして注目されている記事などを選んでいった。

③委員会児童による、新聞記事クイズ・新聞掲示

既存の掲示委員会が、全校児童に向けて新聞の魅力を発信していった。

児童玄関前の NIE コーナーに、自分たちが考えた新聞クイズを掲示して、全校から回答を求め、昼の放送で正解者を発表した。クイズ参加者が多い時は 160 人を超えた。(全校の 60%以上)



④2 階南っ子ギャラリー新聞閲覧コーナー

主に、地域新聞（上越タイムス）やこども新聞（ふむふむ）などのストック新聞を置いている。テーブルと椅子を用意しているので、誰でも座って気軽に読むことができる。

⑤NIE ルーム 新聞の図書館設置

図書室の隣の部屋を、NIE ルームと改称し、新聞の図書館として、過去の新聞をストックする場として利用している。児童玄関前に掲示した新聞を再度貼るなどして、新聞と触れあう場になるようにしているが、利用する児童は少なかった。一方で、教員は、授業で使える新聞記事を探すため活発に利用する姿も見られた。

4 授業実践

全授業者が、1 年間、NIE 実践を行った。研究主題に沿った授業公開を基本とし、全教職員で新聞を活用することを価値づけていった。新聞の活用方法については、新聞を作成する学習を「新聞作成型」、新聞記事を教材等として活用する学習を「新聞活用型」、複数の新聞を比較することで考えを深めたりメディアリテラシーを育んだりする学習を「新聞比較型」とした。

学級担任以外に、通級指導教室担当者、級外職員、栄養教諭も積極的に新聞活用実践を行った。国語科、社会科、家庭科、理科、学級活動、外国語活動、自立活動など、全教育課程を通して NIE の活動に取り組むことができた。

1 月に実施した「NIE 研究指定校 研究会 1 年次」において、授業を公開し、協議会を行うとともに、1 年間の活動の振り返りを行った。その際、授業者が実施した実践を 1 冊の冊子にまとめ配付した。以下は、実践集にまとめた実践の一覧表である。

平成 29 年度 南本町小学校 NIE 実践集より 実践一覧

学級	教科	単元名	新聞活用の型
1 年 1 組	国語科	さがそう！つかおう！ひらがな かたかな	新聞活用品型
2 年 1 組	学級活動	2 学期の思い出新聞を作ろう	新聞作成型
2 年 2 組	学級活動	新聞に親しもう	新聞活用品型
3 年 1 組	社会科	見てきたことを新聞にまとめよう	新聞作成型
4 年 1 組	国語科	見学したことを報告しよう	新聞活用品型・ 作成型
5 年 1 組	国語科	お気に入りの新聞記事を選び、自分の感想を書こう	新聞活用品型
5 年 2 組	国語科	新聞記事から考えよう	新聞比較型
5 年組	外国語科	アルパカかあさんのモフモフ English	新聞活用品型
6 年 1 組	社会科	新聞を読んで戦争中と戦後を考えよう	新聞活用品型
6 年 2 組	理科	科学研究に取り組もう	新聞活用品型
6 年 2 組	家庭科	洗濯をしよう	新聞活用品型
6 年 2 組	社会科	NIE タイム「伝えたいことは」	新聞活用品型
特支 1 組	生活単元	お世話になった先生に新聞を送ろう	新聞作成型
特支 2 組	国語科	三字以上の熟語の構成	新聞活用品型
発達通級	自立活動	みんなも自分も楽しもう	新聞活用品型

5 成果

(1) 研究成果

子どもたちの自尊感情が高まるような「分かった・できたを実感できる」授業づくりとして、次のような手立てが有効であった。

- | | |
|------------------|----------------|
| ①安心して話せる集団作り | ⑥ホワイトボードの活用 |
| ②グループ活動・ペアトークの活用 | ⑦視覚的支援（ICT など） |
| ③明確な課題設定 | ⑧動作化 |
| ④ワークシートの工夫 | ⑨本時の振り返り |
| ⑤ヒントの活用 | ⑩ユニバーサルデザインの視点 |

特に、多くの授業者に提案された手立ては、「明確な課題設定」と「グループ活動・ペアトーク」であった。主体的で対話的な学びを促す意味で、成果があった。また、NIE を通して研究主題に迫るため、新聞を活用した授業が展開され始めたことは、前年度の研究成果を一層深化させるために効果的であった。

新聞を学習活動で利用することについて、活用しやすかったと回答した担任は高学年の担任に多かった。

学級担任からの代表的な意見を挙げる。

- ・NIE 担当から活用事例を提示してもらったり、教材サンプルを提供してもらったりして活用しやすかった。

- ・6 年の社会科は新聞を活用できる場面が多かった。（特に 2 学期～3 学期にかけて）

- ・水俣病に関連した記事があり社会科や同和学習で使う場面を考えることができた。
- ・短時間で使いやすいような新聞社が提供しているワークシートが効果的であった。

(2) 課題

一方で、新聞を活用しづらかった点として、いくつかの意見が寄せられた。主に低学年担任からの意見であった。主な課題を挙げる。

- ・低学年は、記事に漢字が多く、難しい言葉の言い回しもありなかなか読むことができなかった。
- ・低学年が関心を持ちそうな記事を集めることが大変だった。
- ・新聞を授業でどのように活用していくか関連づけるのが難しかった。
- ・漢字にルビがあると活用しやすかったので、子ども新聞は活用しやすかったが、一般紙の活用が困難だった。
- ・新聞記事は、どの学習場面でどの紙面を活用できるか構想するのに慣れていなかった。

これらの課題や授業者の不安を解消しながら、1月に次年度に向けての構想検討会議1回目を実施した。今後も繰り返し検討し、教職員の意見の総意によって新聞活用の課題を克服していきたい。

(3) 来年度に向けて

平成30年度は、「分かった・できたを実感できる」授業づくりの手立てを活用しながら、さらに児童が「進んで学び、自分の考えを表現する子ども」へと成長を遂げることができるよう研究を深めていく。

日本新聞協会は、新聞の特性について、「一覧性・俯瞰性」「解説性・詳報性」「記録性」「携帯性」「保存性」という5点を挙げている。これらの特性を生かすことで、新聞活用自体が目標になるのではなく、研究主題に向かい、目指す子ども像を描きながら実践していくことができると考える。

当校校長が、1年間を振り返り、『当校の学校課題は「自尊感情の育成」であり、研究主題は「進んで学び、自分の考えを表現する子の育成」である。対象と接した際の問いや、思い・願いをしっかりと自分自身の言葉や文字にして伝えることができたとき、自己実現が図られる。そしてその繰り返しが自尊感情をはぐくむ。そのプロセスの充実こそが、当校の教育の根幹である。』と実践に対して感想を述べている。

校内研修を充実させるアプローチとして新聞を効果的に活用し、実践を重ねていきたいと考える。